

カマキリの飼い方（初級）

ここでは7月末以降もっとも普通に採集できるサイズのオオカマキリ（全長5 cm 以上）の飼育方法について紹介します。まず、繁殖などは考えず、カマキリを終生飼育してみたいという方向けの飼育方法です。

1. 飼育用具を用意する



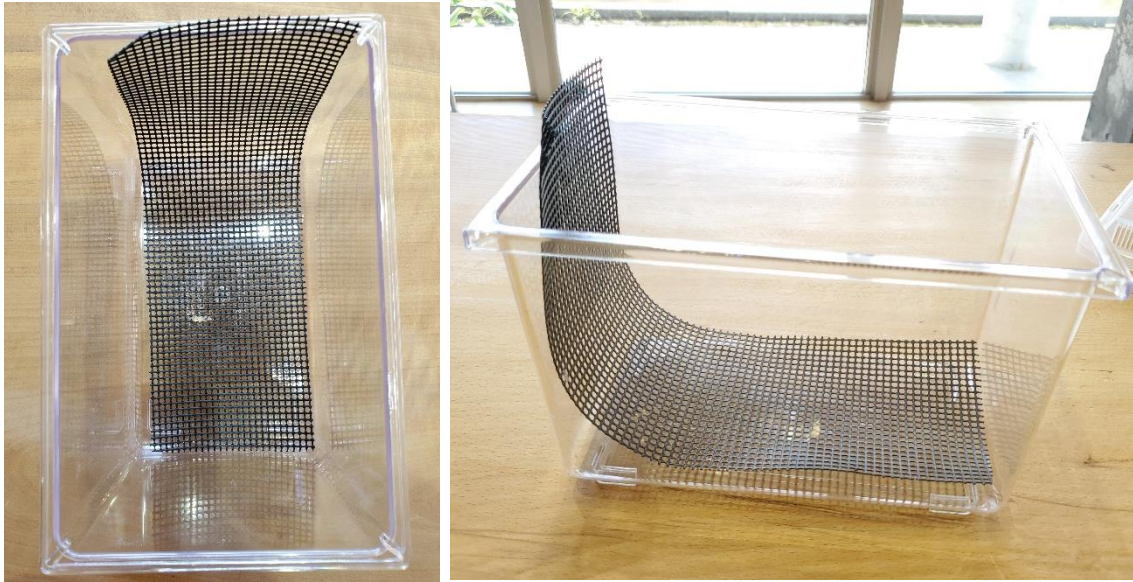
- ① プラケース（幅 20 cm、奥行き 15 cm 以上のもの）
- ② 脱脂綿（キッチンペーパーでも代用可）
- ③ キッチンペーパー
- ④ 乳酸菌飲料の空き容器
- ⑤ 鉢底ネット（ロール状で販売している軟らかいもの）

今回の飼育方法は初心者向けということで、スーパーや 100 円ショップで揃うものだけで飼育します。最悪、近くで撃っていないとしても通販サイトで安価で購入できます。

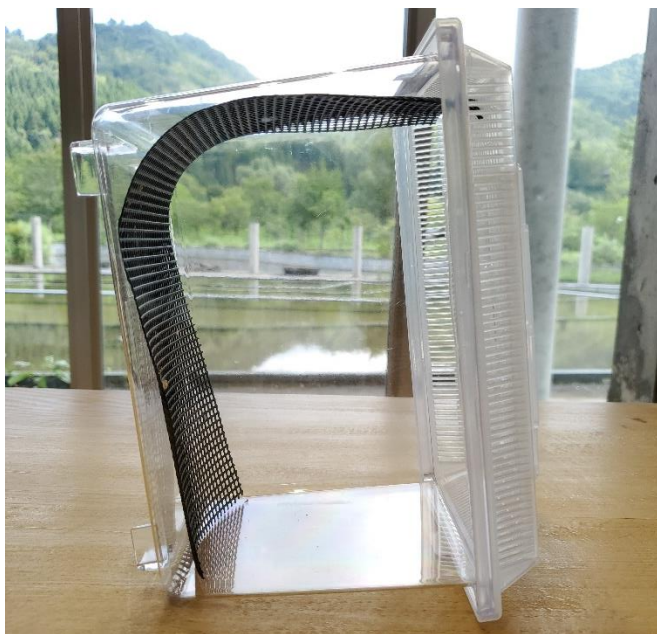
2. 飼育ケースを作る

① 鉢底ネットでカマキリの足場を作る

オオカマキリはツルツルした壁を登ることができますが、長時間そのままにしていると肢あしに負担がかかってしまいます。また、脱皮だっぴの際には肢あしの爪をひっかけてぶら下がれる場所が必要です。そこで足場を作ってあげる必要があります。



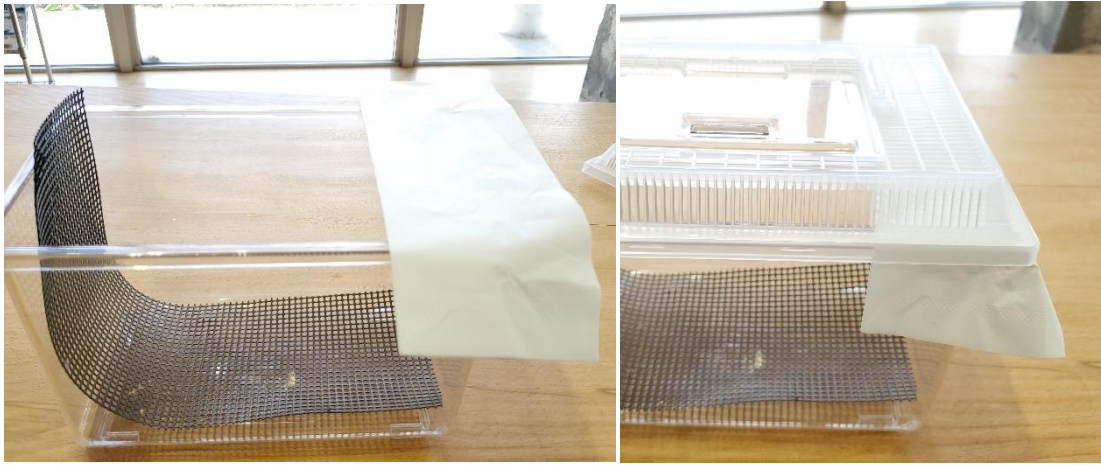
まずは鉢底ネットをちょうどいい大きさに切ります。幅は写真左のようにプラケースの底面の9割を埋める程度、長さは写真右のようにプラケース内から頭が少し出る程度に切ります。長さを整える際は、鉢底ネットが出来るだけぴったりとケースにくっつくようにしてください。



蓋をとじて写真のようにケースを立てた時、足場が『U』型になれば完成です。

② プラケースの蓋にキッチンペーパーを噛ませ、糞や食べ残しがケースから出てしまわないようにする

プラケースの蓋には通気のための隙間が入っています。そのため、ケースを立てて飼育をしていると糞や食べかすなどのゴミが散らばってしまいます。



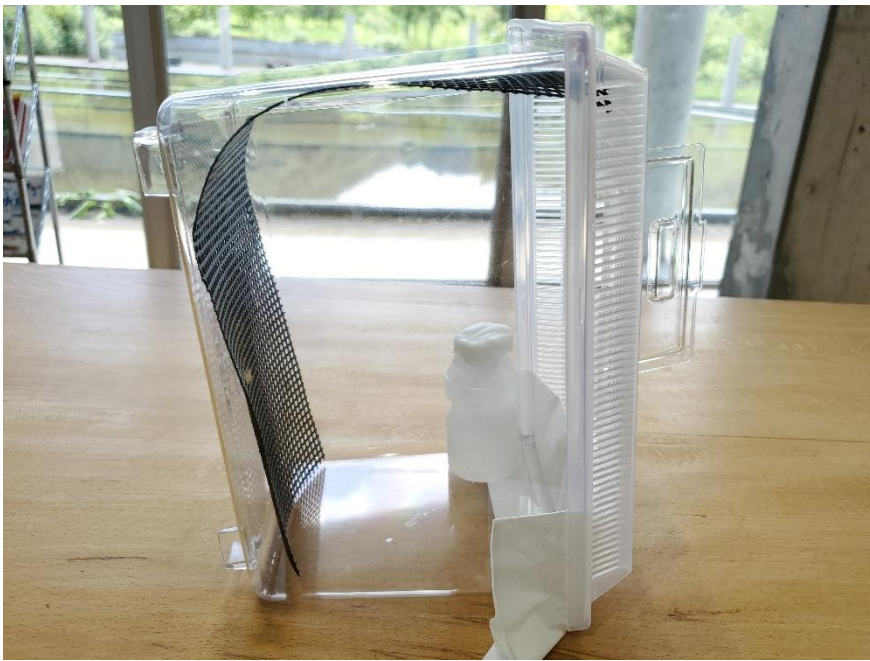
そこで写真のようにケースを立てた時に下に来る面を覆うようにキッチンペーパーを噛ませるとゴミが散らかりにくくなります。

③ 水入れを作る

ケース内の乾燥は脱皮失敗の原因になります。そこで水入れを設置し、ケース内の湿度が保たれるようにしましょう。



まず、よく洗った乳酸菌飲料の容器をギリギリこぼれない程度の水で満たします。次に、ゆっくりと水をしみこませながら適当な大きさに切った脱脂綿を容器に入れていきます。最後に脱脂綿で容器の口を覆えば完成です。



水入れを入れたら飼育ケースの完成です。できるだけ足場から離れた位置に置くようにしてください。糞や食べ残しが水入れに付着しにくくなります。



カマキリを入れたら日常管理のスタートです。

3. 日常管理

① 餌を与える

オオカマキリは主に自身より小さな昆虫を食べます。時にはトノサマバッタやキリギリスも捕食しますが、^{せま}狭い飼育ケースで大きな獲物を与えると、獲物が暴れてパニックになり、食事どころではなくなってしまうことも多いです。また、やはり飼育ケース内のような狭い空間だと、キリギリスに噛みつかれて逆にカマキリが食べられてしまうような事故も起こります。だからといって、逆に小さな餌をたくさん与えるのも大変です。ですので、^{てきせつ}適切な餌のサイズを知るのが大事です。



カマキリに与える餌ですが、だいたい前胸部（写真の赤矢印の範囲）ぐらいの長さのバッタが適当です。具体的にはコバネイナゴやオンブバッタ、フキバッタ類やショウリョウバッタのオスを与えるのが良いでしょう。できれば後肢を切り取って跳ねられないようにしてから与えるとカマキリがパニックを起こす心配もなくなります。

餌は必ず1匹ずつ与えてください。たくさんの餌が近くにいると餌やりの頻度は幼虫なら毎日、成虫ならメスは2～3日に一度、オスなら3～4日に一度ぐらい与えると良いでしょう。

幼虫が餌を食べなくなった場合、脱皮前の可能性があります。餌を取り除いて様子を見ましょう。カマキリの幼虫は脱皮前、脱皮しやすい場所を探してケース内をうろつきます。そして、いい場所を見つけるとぶら下がって動かなくなります。この時、カマキリはカマを半開きにして周りの動きにも反応せず、だらんとした状態になります。また、暗くなっても目の色が黒く変化しなくなります。脱皮前はケースは安静にしてください。脱皮後は体が柔らかく、餌も食べませんから、2日は放置すると良いでしょう。

ちなみに旅行などで家を空ける場合、日ごろから餌を与えていれば水だけで1週間は問題ありません。

② 水の管理

水入れの水はケース内の湿度を維持するためのものですが、カマキリが口を付けて飲む可能性もあります。そのため、清潔にしていないとカマキリが腹を壊し、死んでしまうこともあります。水は旅行などで家を空けるのでなければ、3日に一度は交換しましょう。また、この時、水入れをよく洗い、脱脂綿（キッチンペーパー）は新しいものに交換してください。もし旅行で家を空ける場合、雑菌の増殖を可能な限り抑えるため、出発の前々日に水入れを新しいものに交換しましょう。

③ ゴミの掃除

ケース内のゴミがバッタの^{あし}肢や^{はね}翅、乾燥した白っぽい糞しかない場合は頻繁に掃除する必要はありません。週に1度、全てのゴミを取り除けばいいでしょう。

ただし、バッタの腹部や湿った黒い糞がある場合はできるだけ早めにケース内を掃除してください。これらのゴミは腐敗して腐臭を放ったり、カビの温床になります。また、これらのゴミが水入れの脱脂綿（キッチンペーパー）に^{ふちやく}付着していた場合、水と脱脂綿の交換をした方がいいでしょう。

もし、ケース内からすっぱい刺激臭がした場合、ケースの壁面や足場に特に強い茶色い汚れがないか確認してください。カマキリの吐しゃ物が原因の可能性がありますが、これが見つかった場合、不潔が原因でカマキリが嘔吐した可能性があるため、一度、ケース内を綺麗に掃除しましょう。掃除後、カマキリを入れる前にケース内をよく乾燥させ、カマキリが水を飲まないようにしてください。水を飲ませるとさらに嘔吐して弱ってしまいます。水入れは、餌を与えて様子を見た後、1日置いてから入れるようにしてください。